

## グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	タイ		
校内発表会	未定		(対象)	全校・学年	
学校名	静岡県立沼津東高等学校	氏名	森田 奈緒	学年	2

### 1 目的・応募理由

応募理由は、自分の父親がタイに単身赴任していたことがあり、タイや日本企業の海外事業所などに興味があったり、自分が将来就きたいと思っている職業の分野が工業であり、工場や企業が海外にあることが多いため、今回のタイのジャトコを訪問することが、良い経験になるのではないかと思ったからです。

目的は、日本企業の日本事業所と海外事業所の違いなどについて知ることです。特に海外事業所ではそこで働く現地のスタッフや日本人の話を直接聞いたり、周辺の街の様子を見てみたり、働き方だけでなく文化など違うところが多いと思うのでそこについて詳しく知ることです。

### 2 研修内容等

25日の夜に現地につき、夕食を現地のタイ料理店で食べたのち、ナイトマーケットへ行きました。

26日はジャトコのタイの事業所を訪問しました。

午前は初めに日本人スタッフの方とタイ人スタッフの方に工場内を案内していただいたのち、社員食堂で昼食をいただきました。午後は、工場での業務を一部体験させていただいた後、タイ人スタッフの方に質問をしたり、日本人スタッフの方に事前に送っていた質問に回答していただいたり、一日見学した中で出た疑問について質問させていただき、終了しました。

27日は市内研修としてタイの寺院や王宮、ショッピングセンターに訪問しました。



### 3 感想等

初日は本場のタイ料理を味わうことからスタートしました。普段なかなか口にすることのない独特な味付けや香辛料、食材の料理を通してタイの食文化の豊かさを実感しました。料理だけでなく、食事を囲む雰囲気や現地のマナーにも触れ、日本との違いに気づくことができたのも貴重な経験でした。夕食後にはナイトマーケットを訪れました。通りには色とりどりの屋台や商品が並び、現地の人々の活気に触れることができました。買い物の際には、日本語以外の言語でコミュニケーションを取るといった貴重な経験もできました。英語やジェスチャーを駆使しながら値段交渉を行う中で、言葉の壁を超えたやり取りの難しさや面白さ、そして通じ合えた時

の喜びを体感することができました

2日目のジヤトコでの研修では、まず工場見学を通して、製造現場のリアルな雰囲気の間近で感じることができました。ラインの流れや作業工程を見学しながら、普段自分たちも利用する車の部品がどのような工程を経て作られているのかを具体的に知ることができ、ものづくりの奥深さに改めて気付かされました。特に、印象に残ったのは、日本とは異なる文化の中で、多くの若いスタッフがいきいきと働いていた点です。国によって働き方の考え方や職場環境に違いがあることを実感し、グローバルな視点から働き方を考えるきっかけにもなりました。

また、安全管理や教育への取り組みについても詳しく説明を受け、企業としての責任感や社員育成に対する真摯な姿勢を感じました。自動車部品がどのように実際の車の中で機能しているかについても理解が深まり、理論だけではない現場での学びの大切さを強く実感しました。さらに、異文化の中でのコミュニケーションの難しさと、それを乗り越えた時の達成感や充実感も経験することができ、言葉や文化の違いがあっても、信頼や協力を築くことで強いチームワークが生まれることを学びました。

市内研修では、タイの歴史や文化に触れる数々の貴重な場所を訪れることができました。エメラルド寺院や王宮では、その荘厳で美しい建築と、細部まで丁寧に施された装飾に圧倒され、タイの仏教文化が人々の生活に根付いていることを強く感じました。寝釈迦仏がある涅槃寺では、その巨大さに驚くとともに、タイマッサージ発祥の地としての歴史的価値も知りました。暁の寺では、美しい陶器のモザイク装飾や独特な建築様式に感動しました。最後に訪れたアジアティーク・ザ・リバーフロントでは、現代的でにぎやかな雰囲気の中、タイの多様な一面を感じられました。これらの経験を通じて、企業研修だけでなく、文化や歴史に触れることの重要性を実感し、視野が広がったと感じています。



## グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	タイ		
校内発表会	12月19日		(対象)	全校・学年	
学校名	静岡県立沼津工業高等学校	氏名	勝又 大翔	学年	2

### 1 目的・応募理由

私は今まで、旅行も含めて海外に渡航したことがありません。高校生のうちに一度は海外に行き、自身の視野を広げたいと高校入学以来、強く感じておりました。そこで、今回、海外インターンシップに挑戦することで、視野を広げ、国際的な環境での実践的な経験を積みたいと考えていました。そして、専門的な技術を向上させたいと考え、応募しました。

これから私たちが生きていく社会は、ただ単に語学力に長けているだけではいけません。異文化交流と理解、グローバルな視点に立った課題解決能力、そして、さまざまな物ごとに対する柔軟な考え方が求められる社会だと強く感じます。また、国内における伝統技術の継承や、国外における技術の動向について把握することは、私たち若者にとっての使命だとも思います。

さらには、高度工業化がみるみる進歩する現場の最前線において、最新技術を直接、体験できることは、自分自身の技術力向上及び人格の形成に大いに寄与すると考えております。

### 2 研修内容等

本研修では、ジャトコタイランド社での工場見学や作業体験をさせていただき、バンコク市内研修も行いました。

最初の研修地・ジャトコタイランド社では、社内で行われる基本技能競技大会の体験をさせていただきました。体験は2種目あり、そのうちの1種目は、ねじを締める早さ及び正確さを競うものでした。もう1種目は、製品の寸法を正確に測定するものであり、こちらも実際に体験することができました。また、工場見学では、「どのように効率化が図られているのか。」、「どのように安全に対する工夫が施されているか。」という視点から見学を進めました。加えて、「どのような製品を作っているのか。」、「どのような工程で製品を作り上げているのか。」という観点についても、間近に見て、体験的に感じ取ることができました。

工場見学の最後には、とてもうれしい経験でもできました。それは、ジャトコ社製の製



品が搭載された自動車に乗せていただける機会が設けられたことです。乗車体験で

は、CVT（無段変速機）を搭載したものと、AT（自動変速機）を搭載したものに、それぞれ乗車することができ、変速機の違いを肌で感じるができる、非常に貴重な体験となりました。

次の研修、バンコク市内研修では、「アジアンティーク」と呼ばれる大型複合商業施設での研修を行いました。現地の文化や生活様式、経済活動の一端を体感することができました。

### 3 感想等

今回の海外インターンシップへの参加は、静岡県内の高校から多くの生徒が希望し、高い倍率の中、私もその一員として参加することができました。まずは、このこと自体が非常にうれしく、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回のインターンシップでは、私が今までに経験したことのない異文化交流や、価値観の違いについて、実際に身をもって経験することができました。これらの体験は、普段の生活では決して得られない、多くの気づきを得ることができました。

海外インターンシップに臨むにあたり、事前に行った研修も、私にとって非常に有意義なものとなりました。文化理解やマナー、安全面への配慮を実践する中で、最も大切なことは、「知識を実際の行動へ移す」作業です。このことが最も重要なことであると、強く感じました。また、自分自身の強みと課題について、客観的に見つめ直す、貴重な機会となる研修でもありました。今までは特に振り返ることもなく、平凡な一日を送っていたのだと気付かされました。これは、私自身、今後の学習や進路選択に大きな影響を与える経験になったと実感しております。

現地での活動では、自身の積極性に欠ける部分や、語彙力が大きく不足していることを感じる場面がありました。特に、初対面の相手に対して自分の意見や質問が、上手く伝えられなかったことに対して大きな反省が残ります。その一方で、そのような経験を通じて、事前準備の大切さや、伝えたいことを簡潔かつ明確に表現する力を養う必要があることを痛感しました。

今後は、英語力やプレゼンテーション力を身につけ、異なる価値観を持つ人々とのコミュニケーションを積極的に図っていきたいと考えています。今回の研修で得られたこと、反省すべきことの両面を今後に活かし、より主体的に行動することによって、国際的な視野を持ち、地域社会に貢献できるような人間に成長していきたいです。



## グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	タイ			
校内発表会	10月10日		(対象)	全校・学年		
学校名	静岡県立吉原工業高等学校	氏名	望月 涼聖	学年	2	

### 1 目的・応募理由

友人との何気ない会話をきっかけに、海外に興味を持ちました。そして、見慣れない場所に自分の足で立ってみたいと思うようになりました。私はこれまで、このような挑戦の機会があっても、一步を踏み出せずに避けてきたことがほとんどでした。しかし、今のままでは変わらないと感じ、自分に自信を持ちたいと思いました。さらに、文化や価値観の違いに直接触れることで、もっと広い視野を手に入れたいという気持ちも強まりました。

特に、異なる環境に身を置くことで、自分がどこまで通用するのか試してみたいという思いが強くなり、成長のチャンスとして今回のインターンシップに惹かれました。日本企業だけでなく、グローバルに展開している企業の在り方を実際に肌で感じることで、急速に変化しているこの社会の中で、自分に何ができるのか、どのような価値を発揮できるのかを見つけたいと考えています。

海外という未知の環境で、柔軟な適応力や行動力を養いながら、新たな価値観を吸収し、自分自身をより深く理解するきっかけを得たいと思い、今回の応募を決めました。

### 2 研修内容等

ジャトコについて教えてもらった後、工場見学や安全教育を経て、昼食後に実習をしました。特に印象に残っていることが2つあります。

一つ目は、工場見学をしているときに、売り上げやコスト削減などの状況を視覚的に分かるように表示されていたことです。具体的にどのように変化しているのか、社員全員に共有することの重要性を学びました。このような情報の見える化はモチベーションにもつながりますし、計画を立てやすくなると感じました。

二つ目は、整理整頓の重要性についてです。不要なものを整理したことで、スペースが生まれ、社員の休憩スペースとして活用されていました。しかも、その休憩スペースに置いてある机や椅子は、余った材料で社員が手作りしたもので、部屋の



飾り付けも工夫されていました。社員一人一人が環境づくりに関われる雰囲気があり、職場全体が明るく、働いている人達の笑顔が印象的でした。

実習では、ボルト締めや測定をしました。ジャトコでは、国内外問わず会社で技術力を競う大会を開催していることを知りました。社員同士が競うことで技術力も上がることに加えて、一体感も生まれると感じました。実習の説明は英語や通訳を通して行われました。日本語以外で学ぶのは初めてだったのでいい体験でした。

日本の人達と比べて若くて活発な印象を感じました。タイのジャトコの社員達は、お互いの文化を尊重しあっていました。私もそうなりたいです。初めて海外の人と雑談しました。

当たり前のことなのですが、文化や価値観が違って同じ人間であることを改めて感じました。満足に言葉は通じなくても、気持ちは伝えることはできると学びました。

### 3 感想等

私はこのインターンシップに参加するまで海外に行ったことがなく、海外を漠然としか想像できていませんでした。実際に飛行機を降りて、日本語のない世界に立った瞬間、初めて海外を実感しました。税関では英語がうまく通じず不安でしたが、身振り手振りでなんとか切り抜けることができ、ほっとしました。バスに乗ると、道路や植物、鳥の声まですべてが新鮮で、まるで別世界でした。特に印象に残ったのは電線です。日本とは違い、継ぎ足しされていて絡まっている様子に驚きました。また、タイの交通状況は日本と大きく異なり、日本の整備の良さを改めて感じました。サービエリアで、男子トイレが野外にむき出しの状態で設置されていて驚きました。ホテルではシャワーの使い方も分からなかったり、水も飲めなかったり、トイレットペーパーも流せなかったりなど戸惑うことばかりでした。食事も日本とは違う香りや味に驚きましたが、文化の違いとして受け止めることができました。今回のインターンシップを通して、挑戦することは大切で、乗り越えられるということを学びました。税関での経験のように、自分から一生懸命に話しかけて挑戦すれば相手もそれに応えてくると、今では自信をもって言えます。短い滞在でしたが、自分の世界が広がったと感じています。挑戦する自信もつきました。この経験を将来の進路選択に活かしていきたいです。



## グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	タイ		
校内発表会	12月19日		(対象)	全校・学年	
学校名	静岡県立静岡城北高等学校	氏名	杉山 菜那	学年	2

### 1 目的・応募理由

将来の夢について、医療系か国際系のどちらに進むかで迷っています。海外に行くことで、自分自身を成長させることができると思い、その経験を通じて本当にやりたいことを見つけ、将来につなげていきたいと考えました。また、これまで静岡の企業についてあまり知らなかったため、この機会に知識を深めたいと思いました。インターンシップに参加することで、将来の選択肢を広げることができると感じたのも、応募の理由の一つです。昔から海外に強い興味があり、今回のような貴重な機会があったため、思い切って挑戦することにしました。異国の地での経験を通じて、自分をさらに成長させたいと考えています。

### 2 研修内容等

今回の研修先である株式会社ジヤトコは、自動車用変速機や電動パワートレイン、その部品の開発・製造を行っている企業です。私はその技術や取り組みを学ぶため、工場見学に参加しました。工場見学では、重い荷物を運んだり持ち上げたりする作業をサポートする機械が導入されており、体への負担を軽減する工夫がされていました。そのため、性別に関係なく誰もが働きやすい環境が整っていると感じました。驚いたのは、そうした機械の多くが従業員の方々自身によって開発されているということです。私たちは、大小さまざまなネジを使って、どれだけ正確に・速く作業できるかを体験するワークにも参加しました。見ていると簡単そうに見えましたが、実際にやってみると細かく難しい作業で、思うようにスピードが出ず、改めて技術者のすごさを感じました。次に、ものさし（測定器）を使って長さや深さを測る作業にも挑戦しました。私はその測定器に初めて触れたので、使い方も目盛りの読み方も分からず苦戦しましたが、教えてもらいながらなんとか測ることができました。それでも正確に測定するのは難しく、経験とスキルが必要だと感じました。

また、ジヤトコタイランドでは、自社で農園を運営しており、その土地で従業員が作物を育てて消費したり、自作の椅子や机を置いた休憩スペースがあったりと、SDGsにも積極的に取り組んでいる企業ということもわかりました。

市内研修では、いくつかの寺院を巡りました。もともと寺院にあまり興味はなかったのですが、実際に訪れてみると、その迫力や雰囲気によって圧倒され、宗教や歴史的背景

を肌で感じることができました。想像以上に印象深い体験でした。ショッピングの時間もあり、タイらしいお土産を購入することができました。

### 3 感想等

初めての海外で、しかも知り合いがいない中での参加だったため、出発前は少し不安がありました。しかし、最終的には仲間たちと交流を深めることができ、友情を育むことができ、本当に良かったです。協力し合いながら過ごした時間はとても素敵なものでした。体験作業では、私は他のメンバーより作業スピードが遅く、「工業系の仕事には向いていないかもしれない」と思いましたが、従業員の方々が温かく見守ってくださったおかげで、楽しく体験することができました。ナイトマーケットでは、日本ではあまり見かけないアクセサリなども販売されていて、新鮮で面白かったです。値下げ交渉に挑戦したのも印象に残っていて、英語力の必要性も改めて感じました。夜は少し治安が心配でしたが、それも含めて初めての体験で、好奇心が刺激されました。市内観光ではバスでさまざまな有名な寺院を巡りました。車窓から見える風景は日本とはまったく違い、特にスラム街の様子が強く印象に残っています。日本では考えられないような環境を目の当たりにし、日本での暮らしのありがたさを改めて感じました。訪れた寺院はどれも迫力があり、日本の寺院よりもカラフルで規模が大きかったため、写真を撮るたびにそのインパクトに驚かされ、たくさんの写真を撮りました。今回の3泊4日の研修では、数えきれないほどの貴重な体験をすることができました。静岡から世界に進出している企業のすごさや素晴らしさを実感し、私にとって本当に印象に残る、最高の時間となりました。



## グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	タイ		
校内発表会	12月19日		(対象)	全校・学年	
学校名	静岡県立島田工業高等学校	氏名	鈴木 魁星	学年	2

### 1 目的・応募理由

私は将来システムエンジニア（SE）に就き、人々の生活を便利で豊かなものにしていきたいと考え、今回の海外インターンシップに応募しました。

応募したきっかけは、海外に興味を持っていたからです。母は海外への留学経験があり、私に物事の見方の変化や異文化の理解など、実際に海外に行かないとわからない話をしてくれました。また、SEになるためには視野の広さとコミュニケーション能力が必要です。海外研修に参加することで、日本とは違う文化や考え方が現地の人との交流を通して理解できます。そのため、グローバルな視野を広げ、語学力の向上ができると考えました。現地の企業、学生の方との交流を通じ、システムエンジニアに必要な視野の広さとコミュニケーション能力を習得したいと思い、研修に応募しました。

### 2 研修内容等

国内研修は、7月30日発生のカムチャツカ半島付近の地震により代替動画視聴に変更されました。代替動画視聴では、実際にタイで働いたジャトコ社員によるタイ生活上の注意とタイ語の基本を学びました。少し曖昧だったタイという国への認識が動画を視聴したことで鮮明になりました。また、タイ語を学ぶ中で、学校で学んでいる英語との文法の共通点について知りました。身近な言語との共通点を知ることで、新しく学ぶタイ語への抵抗感が薄れました。

海外研修の一日目には、タイ王国・バンコク市内について案内を受けながら、新しい環境に体を慣らしました。案内中は現地の寺院や宗教分布、チップ文化、渋滞が多い交通事情などの説明を受けました。渋滞について説明を受けた直後に1時間ほど渋滞にはまり、日が出ているうちはこれが日常だと聞き、驚きました。夜には初めてのタイ料理をいただきました。前日まで味わっていた日本料理とはあまりに違う味わいで、とても美味しかったです。しかし、口に合わない料理もまたありました。

二日目には、ジャトコ株式会社の現地工場へ見学を行いました。現地工場では、ジャトコ株式会社について概要の説明を受けた後、工場内の見学や作業体験、従業員との交流会を行いました。初めにジャトコの主な事業の説明を受けました。また、人材派遣、CO<sub>2</sub>削減・リサイクルなどのCSR活動、機械部品・工具の研磨について説明を受けました。見学では、製品の品質、効率向上の工夫を学びました。

作業体験は、研修グループ内でジャトコ内の技能大会の種目の体験をしました。誰かと競い合う場が技術向上に大きく役立つことを実感しました。また、現地工場の安

全教育である、飲酒運転および作業中の事故の模擬体験をしました。体験によって事故や飲酒運転の危険さ、安全教育の説得力の高さを実感しました。

最後に、従業員の方と交流をしました。日本の従業員への質疑応答では、現地での言語の壁や文化の違い、海外転勤のメリットなどを聞きました。

三日目には、ワット・アルンやエメラルド寺院など各種寺院や、王宮といった文化的に重要な建築物を訪問しました。寺院に入る際は靴を脱ぐマナーや、壁画を通じた伝承などを聞き、関心が深まりました。また、寺院では日本の寺と違い、壁がすべて金箔で装飾されていたり、仏像に宝石が多く使われていたり、豪華絢爛という言葉が頭に浮かぶほどきらびやかで驚きました。

### 3 感想等

研修で特に印象に残ったことはジャトコ工場見学の人材育成です。説明に加え、実際に事故を体験し、手順書などを守る必要性や事故が起きた時の対処法を学んでいて、実体験の大切さを感じました。また、技能大会を開催することで技術向上のモチベーションを上げ主体的に成長を図る仕組みがあり、環境づくりが大切だと思いました。

また、研修に参加する前は外国の方との異文化交流には不安を持っていました。しかし、実際に話してみると表情や動作、声色などで考えていることが理解できました。言葉だけではなく、表情や動作もよく観察することの必要性を実感しました。あわせて、今回の経験で行動に移すことが多くの問題に気づき、早期解決や意思決定の能力を高めることを実感できました。これからも様々なことにチャレンジしていきたいと思います。

タイの産業や生活の違いについて学ぶことで、タイだけでなく日本の良し悪しにも気づくことができました。私が海外に思っていた『生活や仕事は日本の方が良い』という偏見はなくなり、偏見にとらわれない考え方、そのための実体験の大切さに気づくことができました。研修中は文化や常識の違いに苦労することがありました。この経験を通じて、新しい環境に適応する力が身につきました。社会人になったとき、転勤で海外に行くことへの関心が強くなりました。



## グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	タイ		
校内発表会	12月19日		(対象)	全校・学年	
学校名	静岡県立浜松工業高等学校	氏名	加藤 来都	学年	2

### 1 目的・応募理由

グローバル化が進み約100万人の人が海外で働いていて、多くの企業が海外進出している。そのため、自分も海外で働く可能性が高いと思い、高校生のうちから海外で働くことの意義や大変さを学びたいと思ったため本事業に応募した。特にジャトコ株式会社は、日本の自動車産業を支える企業であり、自動車開発に関わりたいと思っている自分の将来に直結する体験になると考えている。

### 2 研修内容等

#### 《実施前研修》

- 日時・場所  
令和7年7月20日(日)  
静岡県庁 別館7F 第四会議室
- 内容  
事業の趣旨説明  
グループで自己紹介  
国内研修・海外研修の説明  
渡航ガイダンス

#### 《国内研修》

- 日時・場所  
令和7年7月30日(水)  
ジャトコ株式会社富士市A地区(本社)
- 内容  
会社紹介  
タイの歩き方  
タイ語の自己紹介を作ってみよう  
工場見学



## 《海外研修》

- ・日時・場所

令和7年8月25日（月）～28日（木）

バンコク ジヤトコタイランド社

- ・内容

会社紹介・工場見学・作業体験

バンコク市内研修

### 3 感想等

事前研修では、同じグループの人との繋がりを深めることができ、研修をより有意義なものにできた。ジヤトコ株式会社で予定されていた国内研修は、津波警報の影響で中止となった。現場を実際に見て様々なことを体験したいと思っていたのでとても残念だと感じた。

海外研修では、工場にある様々な工夫を見た。生産ラインではカラクリを用いて従業員の負担を減らしたり、本当に必要な物か見直して無駄を削減できた空きスペースを有効活用したりしていた。また、従業員が働く中で成長できる JEBS という生産方法やスキルトレーニングを行っていることから従業員の成長を重視した企業姿勢を強く感じた。作業体験では、ジヤトコで行われている技術大会の Global Basic Skill Championship の競技の一部に挑戦した。自信はあったが実際にジヤトコで働く人には速さも正確さも遠く及ばず、プロとの差を感じたのと同時に技術力の奥深さを実感する良い機会になった。市内研修では、エメラルド寺院やワット・ポー、ワット・アルン、王宮など歴史的建造物を見学し、タイの文化や宗教の奥深さを肌で感じる事ができた。独特な雰囲気を持つ建築や迫力のある仏像に触れることで日本との違いを改めて考える貴重な機会となった。研修以外の所では、文化、宗教、食文化の違いに触れた。本場のタイ料理の味付けが独特で慣れるのに時間がかかった。言語の違いによる壁が高かったが、観光地では英語を話せる人が多かった。苦手だったが英語で話す挑戦をした。そこでコミュニケーションを取るときに大切なのは、正しい文法や正しい発音ではなくジェスチャーなどを駆使してなんとか伝えようとする姿勢だと感じた。

今回の研修で得た学びや感じたことを今後の生活に結び付け、この研修で培った積極性や挑戦心を忘れず日々の生活や学習に活かしていきたい。



## グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	タイ		
校内発表会	9月22日、25日		(対象)	全校・ <span style="border: 1px solid black;">学年</span>	
学校名	清水国際高等学校	氏名	澤野 修兵	学年	2

### 1 目的・応募理由

私は、公立受験に落ちてずっと後悔していました。いつも思ってしまう。

どんな学校生活があったのだろう、どんな部活に入っていたのだろう、どんな将来があったのだろう。きっと今とは違う、もっと生き生きとした自分になっていたのではないかと自分勝手に捉え、妄想の中の自分があたかも本当の自分なのだと思います。ようにしていました。私にこの話が来た時、いつもの私なら断っていたと思います。卑屈になっていたのです。

しかし、先生が私にこの海外インターンシップの声掛けをしてくださったとき、なんだか自分が認められたように感じました。「どうせ自分なんか」と卑屈になっていた私にとって、他人から認められることは自分が思っていたよりも嬉しく、誇らしく感じました。理想とは違う生活、せつかくなら色々なことに挑戦して、たった一度しかない高校生活を後悔のないようにしたい。そのような思いから、高校生海外インターンシップに応募しました。

また、なぜ研修先をジャトコにしたかという、ジャトコは静岡県の売上高ランキング一位の会社で車の変速機も、トップシェアを誇っており日本の工場やタイの工場でのどんな仕事をしているのか、どんな影響を及ぼしているのか気になったからです。日本の企業と海外の企業との違いにも興味があります。国内研修が津波警報で中止となったため、国内企業の研修はできませんでしたが、海外で働く日本人の方に日本との違いを聞いて比較してみたいと思いました。労働時間や労働環境、仕事に対する考え方など、比較してみたいことがたくさん思い浮かびました。世界と比較すると、日本人は働き過ぎだと聞いたことがあります。年間休日の数も先進諸国の中ではかなり少ない方だと認識していました。年間休日が多い国からすると、日本と同じように労働時間を設定した際、問題にならないのか？文化の違いには特別な対策を講じているのか？など聞いてみたいことが増えていきました。

### 2 研修内容等

今回、海外のジャトコに行って、海外で働く日本人を見て、海外で働くなんて言葉、文化、考え方、が違うから大変そうと思っていましたが、社員の方々はとても楽しそうに仕事をしていて、現地の人とも仲が良かったです。ジャトコは誰でもわかりやすい企業を作っていて、人を尊重することを大切にする理念が、大企業への成長に繋がっていったのだと思いました。

また、現地の人たちはとても働きやすそうな環境で働いていると思いました。なぜなら、広いサッカーコートや、気軽に会話できるカフェスペース、広い食堂などいろんなところでコミュニケーションがとれ、仕事の効率化、ストレス解消など社員のこともしっかり考えられていました。

ジャトコはほかにも事故なしを掲げていて、タイの社員が一つ一つ丁寧に製品を確認しているところが見られ、日本の企業の品質の良い商品がしっかり作られていて遠く離れた国の日本企業でも日本の理念が伝わっていて驚きました。

また、海外で働くことは不安が大きいと思っていましたが、会社に認められたことがなにより嬉しかったとのことで、そのため不安はなかったらしく、私もこのインターンシップの話を担当の先生から聞いたときは、学校に自分が認められたと感じましたが不安は大きかったので、その決断力はすごいと思いました。

ジャトコでは、『事故なし』を目標に掲げており、タイの社員が一つ一つ丁寧に確認しているところが見られ、日本の企業の品質の良い商品がしっかり作られていました。遠く離れた海外でも、日本の企業の精神が根付いていることに驚いたと同時に嬉しくも感じました。この海外インターンシップで日本企業と海外企業の違いを比較し

たいと考えていましたが、残念ながら国内研修は中止となってしまったため、比較は難しいと思っていました。しかし、ジャトコのタイランド社のインターンシップを体験したことで、日本のジャトコも同じなのだろうと思うくらいに、企業の社風に反映されていると感じました。それほど、企業理念が国内外の社員を問わず浸透しているということなのだと感じさせられました。

また、実際にある大会の競技のオリエンテーションがあり、車に使われるネジを締める競技はすごく単純な作業でしたが、両手を使って同時に絞めるのは、思ったよりも時間がかかって本職の人と一分以上の差がついてしまいました。ほかにも、実際使われる測定器を使って物の長さを図る競技では、使い方もわからない、見方もわからない状態で、簡単な説明と五分程度さわったところで競技が始まり、6問中3問正解と、なにもわからない状態でやってみた割には悪くない成績で終わることが出来ました。言語がなかなか伝わらない中での作業は、こんなにも困難をきわめるのかと思いました。今回体験した内容は、業務のほんの一部に過ぎないと思いますが、一つ一つの作業を社員の皆様が丁寧にしているということを実感するには十分でした。



現地の日本の社員の方と話をすると、みなさん海外勤務に抵抗を感じておらず、むしろ前向きに海外勤務を希望されたことが分かりました。海外自体にしり込みしていた私とは違い、その積極性に感心させられました。私も何事にもしり込みせず、挑戦する心を大切にしたいと思いました。今回のインターンシップも参加したからこそその気づきや学んだことがたくさんあったので、挑戦するからこそ得られるものがあることを再認識することができました。

### 3 感想等

タイのジャトコで働いている日本人は、少人数でそんな中、二百人近くいる社員をまとめていて、とても背中が大きく見えました。日本の企業でも活躍していたことで転勤の話が回ってきたのだろうと思い納得すると同時にとても尊敬しました。

また、タイでは日本車が多くジャトコの主要な納入先に日産や三菱、スズキなどがあり多くの日本車にジャトコの変速機が使われているため、大きな影響を世界に与えていることを知りました。しかし、違う地区に行くとともに貧困化が激しく、貧富の差が大きいことに驚きました。また、道路が毎日渋滞したり、ゴミが散乱していたり、日本の凄さを再認識する良い機会にもなりました。今回、初めてタイに行って、私は日本と似ているところがたくさんあるなと思いました。例えば、車が左側通行だったり、制服、高層ビルだったり、先生が言っていた通り「所詮同じ地球」という意味がわかったような気がします。海外にある企業を実際に見てとても興味を持ちました。いつかは、私も海外で働いてみたいと思うようになりました。その為には、たくさん勉強して海外に支社を持っている企業に就職する必要があります。



たくさんの方のことを体験して私は、自分に自信を持つことができ、色々な視点で物事を考えていきたいと思うことができました。何の目標意識もなく、ただ毎日を過ごしていた私でしたが、この海外インターンシップの経験は将来の「仕事」に対する意識を変えるとともに、日本での日常が世界の日常ではないことを実感したことで、充実した日々を過ごすことの大切さに気付かされました。自分を変えられるチャンスだと思い参加した海外インターンシップですが、その考えは間違っていなかったと、今はひしひしと感じています。挑戦することは人を成長させ、自分で自分を認められるようになると思えば、学んだことで、これまでの私とは全く違う「私」に成長することができると思っています。この経験を今後の生活に活かし、高校生活を充実させたいと思いました。このような自分を変化させる機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。